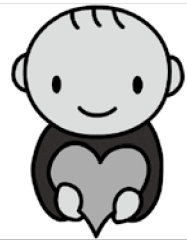


# こころらぼ

こころのラボレーション



スクールサポーター  
(臨床心理士)  
小林 真理

## 自分探し

### ～思春期は誰でも一緒～

小学校5・6年生くらいになると、子どもたちは自分の人生をどう生きるのかについて迷ったり、葛藤したりする「思春期」という発達段階の時期にはいつていきます。

「思春期」とは、自分でも認めたいほどの速さで体つきが変わり、「自分って何?」と自意識が芽生えたり、淡い恋心を抱くようになったり、些細なことで激しく(大袈裟?)一喜一憂して心の状態がめまぐるしく変わるような時期です。そのため大人から見ると行動も「あぶなっかしく」見えることがあったり、「理由なき反抗」のように親を含めて周囲の大人と衝突したり、時には同年代の仲間や友達と衝突するなど、体も心も人との関係性も様々なことが変わっていく中で、子どもから

大人になるために「自分や」社会」とハードに向き合っていく時期でもあります。

発達障がいの子どもにも「思春期」は同様に訪れます。知的障がいであってもダウン症であっても「思春期」は同じように訪れます。体や心の変化に加えて「なぜ自分は特別支援学級(特別支援学校)にいるのか」「本当はクラスのみんなと一緒にやりたいのに」「周りは自分をどう見ているのか?」と障がいのある自分」に疑問をもって苦し

くなってしまう、行動としても八つ当たりのように荒れたり、気持ちがあふれすぎて誰とも関わりたくないと感じてしまったり、自暴自棄になってしまうこともあります。「仲間づくり」がうまくできずに、孤独感を感じてしまうことも少なくありません。このような苦しみや葛藤の波を乗り越えながら、徐々に「自分」を受け入れていかななくてはならないのです。

そのために必要なのが、人とのつながりです。人とのつながりが「社会とのつながり」になっていくのです。自分も人とながれる、受け入れられそうだと

なんとかなるのかもしれないという実感をもつことで「自身」や「障がい」と向き合い社会にでていく子どももいます。

障がいの有無に関わらず「思春期」という発達段階が本人たちにとって、ハードな時期であることは間違いありません。しかし「障がい」が社会的に理解されていない場合、障がいのある子どもにとっては自分自身を受け入れることに、さらに抵抗感や恐怖心や疎外感を感じてしまうことがあります。

私たちひとりひとりの「目に見えない障がい」への理解が、彼らにとっては自分を受け入れるための勇気となり、社会とつながっていく一歩になるかもしれません。

それぞれの小さな気づきが大きな理解につながっていくこともあります。日々の生活の中の気づきを大切にしていきたいですね。



# 植物園だより



ヤマトトリカブト  
雅楽奏者の冠にも似た花をつけるヤマトトリカブトの花が、今月中旬に見頃を迎えます。

## ◆9月花ごよみ

上旬  
アキノキリンソウ、アズマレイジンソウ、オケラ、カシワバハグマ、カリガネソウ、キバナアキギリ、キレンゲショウマ、サワギキョウ、タチフウロ、ヒメシオン、ミヤコアザミ、ワレモコウ

中旬  
アケボノソウ、オグルマ、コシオガマ、サクラタデ、シモバシラ、シラネセンキュウ、セキヤノアキチヨウジ、タムラソウ、ハッカ、フジバカマ、ベンケイソウ、ヤチアザミ、ヤマトトリカブト

下旬  
コハマギク、サラシナショウマ、シオン、セイタカトウヒレン、タデアイ、ツルボ、ヒガンバナ、マルバノキ、ミカエリソウ、モリアザミ、ヤマラッキョウ、リュウノウギク、リンドウ

※主なものを掲載

## ●植物観察会のお知らせ

園内を散策しながら郷土の植物、見頃の植物などを紹介します。

とき 9月1日(日)、15日(日)  
10時30分～11時30分(両日とも)

講師 植物園職員  
定員 各日20名  
料金 入園料のみ

※申込不要  
天候状況等により時間の短縮や、中止の場合あり。

【問い合わせ】町植物園 ☎48-3337